

令和4年度 第4回 東海村子ども・子育て会議 議事録

会議名等	令和4年度 第4回 東海村子ども・子育て会議
日時	令和5年1月25日(水) 14:00~14:40
場所	東海村中央公民館 会議室3
出席委員	神永直美(会長), 海老澤彩, 佐藤彰, 諏訪健一郎, 大森奈穂美, 高橋登志子, 鈴木淳子, 鹿志村茂, 諏訪泰子, 千葉香, 鈴木香代, 戸祭久則, 近藤壽子(順不同・敬称略) 15名中13名出席
事務局	佐藤部長, 白石課長, 高橋課長補佐, 早坂課長補佐, 志村課長補佐, 宮河係長, 飯塚係長, 吉沼主事(記録者)
次第	1 開会 2 部長挨拶 3 会長挨拶 4 議事 (1) 第二期東海村子ども・子育て支援事業計画(中間改訂案)について 5 答申 6 その他 7 閉会
資料	<b>【事前配布資料】</b> ・第二期東海村子ども・子育て支援事業計画中間改訂(案) ・【資料1】令和5・6年度の「量の見込み」の推計について ・【資料2】第二期東海村子ども・子育て支援事業計画に係る中間年の見直しスケジュール ・【資料3】第二期東海村子ども・子育て支援事業計画中間改訂(案)に対する意見公募結果
議事内容等	<p>1 開会</p> <p>2 部長挨拶</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>今回は4回目の会議ということで, 第二期東海村子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて, 答申を出すことになる。忌憚のないご意見をお願いしたい。</p> <p>4 議事(会長による議事進行) ※事務局が【中間改訂(案)】及び【資料1・2・3】により説明。     (1) 第二期東海村子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて</p> <p>5 答申</p> <p>6 閉会</p>

## ■審議内容

### (1) 第二期東海村子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

#### 【委員】

東海村では推計以上に人口・子どもの数の減少が進んでいる。けやきの杜保育所の開所以前は、保育の受け皿が不足していたが、今は、けやきの杜保育所の開所と子どもの数の減少により充足している。そのため、今回の見直しは適切であると考えている。中間改訂案に異論はない。

パブリックコメントの方法については今後の課題として考える必要がある。0件であることは、現在の方法では住民の考えを掬い上げられていないことを意味している可能性がある。

保育の量が充足したことで、今後は量より質が問題となってくる。

アレルギーや発達障害など、配慮を要する子どもたちが増えているにも関わらず、保育士の配置基準は長い間変わっていない。国の基準どおりではとても回らず、現場は悲鳴を上げている。子育てに悩んでいる保護者からの相談も多い。

国は「異次元の少子化対策」と言っているが、具体的な内容は分からない。現状国の基準では対応しきれない部分が多く、子育てに関する政策をどう展開するかは、自治体の裁量による部分が多い。

子育て世帯や現場の要望・声をよく聴いて、具体的な対応を政策に反映させられるよう取り組み、次の第三期計画に反映してほしい。

#### 【会長】

量から質への転換は重要である。

パブリックコメントが0件であることについて、事務局はどう捉えているか。

#### 【事務局】

佐藤委員の御発言どおり、パブリックコメントは住民の意見を聞く貴重な場であると考えている。パブリックコメントは東海村意見公募手続実施要綱に基づいて実施するものであり、変更には全庁的な調整が必要であるため、検討課題としたい。

#### 【委員】

中間改訂案に異論はない。

人口の推移については、実績でも0歳児の人数が極端に少ない年があるなど、推測が難しい部分もあると思うが、今後も丁寧に推移を見て計画を見直していく必要がある。

パブリックコメントが0件である理由は、村民がどこにどう意見を言えば良いか把握できていないためではないかと考える。

保護者は子育てに関してそれぞれの意見や気持ちを持っているため、丁寧に声を掬い上げるようなシステムが必要である。子育ては他の分野と性質が異なる部分も多いので、子育て支援課独自で村民の意見を聞く仕組みがあってもよい。意見を言いたい保護者は多いと思う。今後検討してほしい。

#### 【委員】

新制度未移行幼稚園については県の管轄であるが、子育て支援課の管轄となる部分もあり、そのすみ分けがはっきりしない。

休園等の判断も園長に権限があるが、新型コロナウイルス感染症については村が判断することにな

り、迅速な対応が難しいことに危機感を感じた。保育園は村で休園等を判断しているが、保育園とは預かる子どもの年齢層も性質も違うため、同様の扱いというのは違和感がある。命に関わることは園長判断を可能にするなど、臨機応変な対応を認めてほしい。

村立幼稚園が再編されることで、東海村は公立・私立の幼稚園が1園ずつになる。公立と私立ではそれぞれ教育の内容も異なり、独自の取組を行っているが、互いに交流するような事業も必要である。

ただし、現在、須和間幼稚園・みぎわ幼稚園・中丸小学校で幼小連携の取組をしているが、幼稚園同士の規模が異なる上、みぎわ幼稚園は須和間幼稚園と異なり中丸小学校区以外の児童も多い。中丸小学校に進学する子だけを連れていくことも難しいといった課題が生じている。交流するにも同様に多くの課題があるはずなので、一度整理した上で、公立・私立幼稚園がお互いに協力し合えるような場所をつくってほしい。

#### **【会長】**

公立・私立幼稚園の連携も「量から質へ」に含まれる今後の課題になると思う。

それでは、以上をもって本計画の中間改訂案を東海村長へ答申したいがよろしいか。

#### **【全委員】**

(異議なし)

以上